

図書館は成長する有機体

堀 由美

豊かな田園風景の中にある小さな図書館。それが私の務める図書館です。

私にとっての図書館は、子どもの頃から心安らぐ場所でした。そこは、ただ本を読むためだけの場所であるだけではなく、いろいろな悩みや考えを持つ自分をすっぱりと受け入れてくれて、常に寄り添ってくれる何かがある場所でした。その何かとは、いったい何だったのでしょうか。今の私は、図書館の利用者から司書へと立場が変わり、このことについてよく考えます。そして気づいたことは、そこで働く司書の思いが図書館を創っていくのだということ。地域を愛し、図書館を良くしようとする気持は、利用者にも伝わるのだということ。私が子どもの頃感じた、あの何かは、何も特別なものではないのだと気づきました。それは地域の人々と共に歩み、寄り添い、成長していける図書館の中に生まれるもの。そしてそれを支える司書の眼差しと、たゆまぬ努力の中にあるのだと思いました。図書館は成長する有機体。そして司書も、成長することをあきらめてはいけません。

「図書館は成長する有機体である」 図書館学の父 ランガナタンの言葉より

(ほり・ゆみ 豊後大野市緒方図書館)



(豊後大野市緒方図書館の正面入口
図書館は歴史民俗資料館と併設)

豊後大野市中央図書館児童コーナーで
絵本を楽しむ子どもたち

